

親子で歩こう”Retro KOBE” 神戸旧居留地の歴史にふれて



タウンウォッチングをする親子



みんなで作った地図

みなとまち神戸。その神戸のハイカラでエキゾチックな文化は、明治の開港にともなってつくられた外国人居留地からはじまりました。その居留地が返還されて今年で、100周年。それを記念して、旧居留地を中心に、さまざまなイベントが開催されています。こうべまちづくりセンターでは、そんな旧居留地で8月22日の日曜日、小学生とその親による「親子で歩こうRetro KOBE」タウンウォッチングを行いました。

二宮の神戸市役所の西側から東は元町の大丸、南は、海岸通まで、神戸を代表するオフィス街である旧居留地は、日本の開国以来の歴史を今に色濃く伝える魅力あふれる街でもあります。その歴史は、安政5年に結ばれた通商条約にまでさかのぼり、横浜、長崎、函館、新潟、兵庫の5つの港を開港することを決定したことに、その歴史は始まります。

居留地の建設は、神戸開港とともに設けられ、外国人のための住居や通商の場となるために建設されました。居留地の造成は、ジョン・ウィリアム・ハートという土木技師によって設計され、街路、街路樹、公園、街灯、下水道などが計画的に整備されました。当時の英字新聞には、「東洋における居留地として最も良く設計された美しい街である」と高く評価されており、現在も旧居留地の街路は、当時のまま残されています。

そんな旧居留地を、8月22日の日曜日、まちづくりセンター主催で、親子11組24名が参加して、「親子で歩こうRetro KOBE」タウンウォッチングが行われました。まちづくり会館で、旧居留地の歴史やまちづくりに詳しい旧居留地連絡協議

会会長の野澤さんから、旧居留地の歴史やまちづくり、見所などの講義を受け、旧居留地に現在も残る唯一の異人館であり、国の重要文化財に指定されている15番館を見学した後、各班に分かれ、思い思いに旧居留地を歩きまわりました。

大 正から昭和初期にかけて、欧米の建築様式を取り入れた近代洋風建築が旧居留地には、数多く建てられましたが、現在も15番館の他、海岸ビル、商船三井ビルなど、その幾つかがその美しい姿を今に残しています。他にも、旧居留地には、それぞれのビルを紹介したビル銘板や開港当時の地番標石等や旧居留地にしかないスポットもあり、親子の目でゆっくりとこれらを見てまわりました。

参加した方々に感想を聞いてみると、「日頃よく通っているまちだが、改めて、じっくり歩いてみると、歴史ある魅力あふれるまちで、ますます旧居留地が好きになった」「暑かったが、いろいろ神戸の歴史を勉強できて楽しかった。」などの感想や意見がよせられました。これからも、まちづくりセンターでは、子どもたちを対象としたまちづくり関連イベントを随時行っていきたいと考えています。

第1回市民安全推進員同窓会が 開催されました

第1期及び第2期の市民安全推進員を対象にした同窓会が6月6日(日)、兵庫県中央労働センターで開催され、48名の推進員の方が参加されました。同窓会では、「安全なまちづくりを支える市民の連帯」と題し、まちづくり会社コー・プラン代表 小林 郁雄氏に講演をしていただきました。内容は次のとおりです。

1. 大震災の3つの教えー〈自律と連帯〉

4年半前の阪神・淡路大震災から、われわれは3つの教えを得ました。

- (1)「巨大なものはもろい」 … 大きなものは災害に遭うともろく、回復しづらい。なるべく小さく分散させて、自分でできることに集中すべきである。
- (2)「やっていないことはできない」 … まちづくり、住まいづくり、共同化、消火・救急活動など、平日頃やっていないことは、災害時や緊急時にできるわけがない。
- (3)「自分でできることは自分でする」 … これが一番大事であるが、なんでもかんでも人に頼るのではなく、自分でできることはしっかりと自分でやっていくことが大切。

2. 小規模分散自律生活圏の多重ネットワーク社会ー〈コンパクトシティ〉

～コンパクトタウンー環境/地域経済/コミュニティの自律生活圏～

現在、震災から4年半を経て、神戸市では、リハビリ期間を経て社会復帰し、本格的な住まい、まちづくりをするための準備期間に入っている。そのためには、小規模で自律した生活圏の中で、自分たちのまちづくりを決定できる仕組みを準備する必要がある。具体的には、環境、地域経済、コミュニティからなる自律した生活圏ーコンパクトタウンを構成し、地区の自由になる事業システムづくりを目指す。

3. 安全まちづくりを支える市民

今後、市民安全推進員として地域で活躍されるにあたっては、市民安全推進員同士だけでなく、他のいろいろな組織の人たちと連携を取りながら活動していく必要がある。

○市民安全推進員ー防災福祉コミュニティ(防災からの自律生活圏)

○相互のネットワーク化の重要性

- ・インターネット/メーリングリストの活用
- ・市民安全推進員ー大学や若手とのリンク
- ・既存組織とのゆるやかな連携
- ・建設省総合技術開発プロジェクトとの連携

講演終了後は、活発な情報・意見交換が行われ、懇親会では推進員同士の交流がより深まりました。

★★市民安全推進員の皆様へ★★
☆☆☆上級コースのご案内☆☆☆

平成11年度の第1回 上級コースが以下の要領で開催されます。

【日時】平成11年9月12日(日) 13:30より

【場所】こうべまちづくりセンター

【内容】講師にまちづくり会社コー・プラン代表 小林 郁雄氏をお招きし、「安全で安心なまちづくりの実践研究」と題して、全国の安全・安心の具体的な取り組み事例をご紹介します。

震災後、安全・安心のまちづくりは、多くの地域で実施されており、その先進事例の工夫やアイデアを学ぶとともに、小林氏を交え、地域での防災や防犯などの実践について、情報・意見交換を行います。

※なお、この実践研究は、今後、推進員の方々による地域での実践事例研究につなげていく予定です。

地域の活動でいろいろと実践を考えておられる方は、ぜひ、ご参加ください。

※申し込みは、電話、FAX、郵送いずれの方法でもかまいません。下記の大学事務局まで、お願いします。

こうべ市民安全まちづくり大学事務局(神戸市 市民局 市民安全推進室 安全企画課)
林、宇野まで TEL.078-322-6238 FAX.078-322-6031

まちづくりのきっかけづくり(2)

前回述べたマップ作りと同様、イベントの実施もまちづくりのきっかけづくりとして有効である。ただ、行政がイベントを実施する場合、お膳立てをすべて行政側が行ってしまい、住民の発意や創意・工夫が反映されず、自分たちの与えられた役割をこなすだけに終わっていることが少なくない。あるいは観客と参加者が完全に分離していたり、参加者同士の交流がうまく図れない場合もあるし、一過性に終わってしまうこともある。その全く逆のイベントがそれぞれの地域で催されている盆踊りである。地域の住民団体の皆さんが、協力しあって、資金集めから、うちわの調達、やぐら組みや模擬店まですべて手作りで行う盆踊りは、規模の大小はあるにせよ、地域のコミュニティづくりに大いに役立っている。子供たちにとっても、地域への帰属意識を実感できる数少ない年中行事となっているのではないと思われる。

ただ、多少画一的にならざるを得ないため、地域の特色づくりに役立ったり、他地域の人々も参加して楽しむことができるかという点、なかなか難しい面もある。従って、残念ながらまちづくりのきっかけとして考えると、その効果には限界もある。中央区では、毎年8月にメリケンパークで「海の盆踊り」を開催している。多くの住民団体の方々や観光客が参加・交流できる「盆踊り」としては、特筆すべきものがあるが、それでもまちづくりという観点でみると広がりやインパクトは若干弱いことは否めない。

まちづくりのきっかけとして、有効なイベントの条件としては、(ア) イベント業者がすべて仕切ってしまうのではなく、住民の創意工夫がいかされた手作りであること (イ) 一過性の人集めで終わる事なく継続性があること (ウ) パレードのような「見物型」でなく「参加型」であること (エ) まちづくりの一定の理念や考え方を創造・周知する機会となること、などが重要である。そのようなイベントを「まちづくりイベント」と呼びたいが、その実践例として「インフィオラータ神戸」を紹介したい。



○「インフィオラータ神戸」

インフィオラータ神戸は、チューリップの花弁で路上に花絵を描くイベントで、当時中央区役所のM係長

がイタリアのジェンチアーノ市で行われているイベントを参考に考案したものである。きっかけは、平成8年の秋に、中央区の旧葺合地域の玄関口であるあじさい通りが歩行者天国になったことから、商店街の方から特色づくりを考えて欲しいという申し出があったことが最初である。そこでチューリップの花弁の調達やテーマの設定、技術的な検討などを加えて、区役所から商店街の人たちに対し提案したものである。印象深かったことは、実施するかどうかは商店街の人たちが最終決断したことである。リーダーの一人が、「区役所からの提案であれば、イベントに場所を貸しているだけになる。」「経費が1団体100万づつかかっても（実際はそんなにかからなかったが）やる意志があるのか。」という問いかけに、商店街の皆さんが、うなずいたなんとも言えない顔を今でも思い出す。結局、富山県砺波市のチューリップ花卉の提供や神戸芸術工科大学の先生・生徒の技術協力など多くの人々の協力を得て、平成9年春から北野も含めて第1回としてスタートすることができた。今では、元町商店街、ポートアイランド、湊川商店街、六甲アイランドも加えて、市内6カ所で開催され、すっかり春の風物詩として定着した感がある。期間中の来場者もトータル数十万人を数え、集客力もさることながら、本当のねらいは、「美緑花ストリート」として沿道の商店主の皆さんが道をきれいにしてもらうための啓発であるという点がユニークなところである。つまり、イベント時には路上の看板やのぼり、自転車などを撤去せざるを得ないため、その後の道路美化のルールづくりの実験としての効果が期待できるのである。例えば、その効果の一つとして、あじさい通りは平成10年から「ポイ捨て禁止重点区域」の指定を受けている。また、イベントを「する人」「見る人」と分かれるのではなく、子供も学生もお年寄りもみんなてチューリップの花弁をむしって、みんなで花絵を描くという「全員参加型」であるという点でもユニークなものとなっている。

その後、このインフィオラータ神戸は地域のまちづくり活動に相当なインパクトを与えることができた。最初のテーマであった「人・つなぐ」という願いのとおりに、さらに東へ伸ばしていきたいという住民の盛りあがりを生み、「旭雲通り美緑花会議」や「人・つなぐ旧西国街道まちづくりを考える会」などの住民団体の組織づくりにつながっていった。現在では、あじさい通りが旧西国街道であるということから、石碑や案内看板の設置など、地元と区役所等との手によって次々とユニークなまちづくり活動が展開されている。

(前中央区まちづくり推進課長・現教育委員会社会教育部体育保健課長 見通孝)

まちセン イベント情報

11年度まちづくり大学まちづくり実践ゼミのご案内

このゼミは、住民主体のまちづくりを応援する専門家を対象に最新の制度・手法を紹介するものです。今年度は、現地で使われた手法や制度について、たずさわったコンサルタントの先生や地元まちづくり協議会の方、行政担当者から説明します。

＜ 見学予定地域 ＞

10月16日(土) 野田北部地区 ・ 10月19日(火) 深江地区
 10月23日(土) 真野地区 ・ 10月26日(火) HAT神戸地区
 10月30日(土) 西出・東出・東川崎地区及び新開地地区

時間は、午後1時ごろから午後5時ごろまで

資料代・1人¥20,000.- (学生の方は、¥5,000.-)

ご希望の方は、こうべまちづくりセンターへFAX(078-361-4546)でご連絡ください。集合場所等詳しいことは、詳細が決まり次第ご連絡します。

まちづくり会館からのお知らせ

こうべまちづくり会館 地階ギャラリーの予定

期 間	内 容・テ ー マ	主 催 者
9月2日(木)~7日(火)	増井教室第11回油絵グループ展	乾 登美子
9月9日(木)~14日(火)	R展 第X (油彩・アクリル等)	Rあーる展
9月16日(木)~21日(火)	第8回 葦の会展(油彩)	葦の会
9月23日(木)~28日(火)	第21回兵庫倶楽部写真友会写真展	兵庫倶楽部写真友会
9月30日(木)~10月5日(火)	第21回CPM洋画展	三菱重工神戸造船所 CPM 洋画部

こうべまちづくり会館 1階オープンギャラリーの展示

9月1日(水)~30日(金)	国民年金・年金基金制度の紹介	保健福祉局保険年金課
12月までの第2日曜日午後2・3時	パチュニアサロンコンサート	元町4丁目商店街・アクス音楽院

すまい・まちづくりのご相談は

- すまい・まちづくり人材センター
 (こうべまちづくり会館 3F)
 電話 078-361-4377 FAX 078-361-4584
 受付は、月・火・木・金曜の午前10時~午後5時
- 祝日・土・日曜は
 まちづくり相談コーナー で受け付けます
 (こうべまちづくり会館4F)
 時間は、午前10時~午後5時

自治会活動などのご相談は

- コミュニティ相談センター(まちづくり会館4F)
 会報等の印刷サービスや学習会へのインストラクター派遣など
 受付は、午前10時~午後6時
 電話 078-361-4565



〒650-0022

神戸市中央区元町通4丁目2-14

電話 078-361-4523

FAX 078-361-4546